

七夕に願いを 子育てサロン「さくらんぼ」

にこここ甘楽内にある子育て支援センター「にこここキッズかんら」は、主に乳幼児を持つ親子が気軽に集い交流できる場所として多くの皆さんが利用しています。

カレンダー製作、ベビーマッサージ、音楽に合わせて体を動かすリトミックなどのほか、民生委員・児童委員が子育てを応援する子育てサロン「さくらんぼ」のイベントも毎月2回行われています。



一人一人の思いが込められた七夕飾りの前で記念の1枚



七夕飾りを製作する親子を見守る民生委員

7月3日にはさくらんぼの「七夕製作&笹に飾ろう」が開かれ、親子16組が参加しました。親子で協力して織姫と彦星の飾りを製作したり、短冊に願い事を書いて笹に飾りました。

息子の凜紅さんと参加した飯塚優香さんは「季節のイベントを子どもに体験させてあげられ、いろんな人と触れ合うこともできるので、いつも参加しています」と笑顔で話しました。

“町長先生ありがとう” かんら保育園児が来庁

茂原荘一町長が7月22日に退任するのを目前に控えた11日、かんら保育園(妙見良子園長)の年長児17人がお別れのあいさつをするために役場を訪れました。

この日の当番の園児3人が「茂原町長せんせい ありがとうございます」と表紙に書かれた園児たちの貼り絵を手渡すと、思いがけない訪問者のかわいらしいプレゼントに「自宅で大切に飾ります。皆さんこれからも元気に過ごしてくださいね」と顔をほころばせました。

その後、園児たちは茂原前町長と一緒に記念撮影をしたり、町長室を見学したりして役場を後にしました。



前町長に記念冊子を手渡す園児

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ

「社会を明るくする運動」富岡甘楽推進委員会が7月1日に役場を訪問し、内閣総理大臣からのメッセージを富岡甘楽保護区保護司会の佐藤 明さん(小川)が、群馬県更生保護女性会員からのメッセージを町更生保護女性会の吉田ひろ子さん(上野)がそれぞれ読み上げ、メッセージ伝達を行いました。

この運動は74回目を数え、犯罪や非行の防止と立ち直りについての理解を深め、多くの人が力を合わせ、共に支え合う地域社会を築こうと取り組んでいる全国的な運動です。



メッセージを朗読する佐藤さん(左)

多彩な活動を通じて国際交流

国際交流活動や国際協力、地域における多文化共生の推進に取り組んでいる甘楽町国際交流振興協会(長岡昭宏理事長)では、多彩な事業を行っています。

ワインのタベ

6月14日、道の駅甘楽で5年ぶりに「ワインのタベ」を開催し、町内外から約60人が参加しました。

友好親善都市であるイタリア・チェルタルド市直輸入の11種類のワインがカウンターに並び、参加者は気に入ったワインを手に取り参加者同士の交流を楽しんでいました。この日は道の駅甘楽名物の地粉を使った石窯焼きピザや町内産の有機野菜を使ったサラダも提供され、ワインの味わいをより引き立てていました。



ワインボトルを使った照明の下で乾杯する参加者

はたらくための日本語講座 ごみの出し方教室

6月29日、ら・ら・かんらで正しいごみの捨て方を知ってもらおうと町内の事業所で働く外国人を対象にごみの出し方などのルールを学んでもらう教室を開きました。

当日は、ベトナム、中国、カンボジア、インドネシア出身の40人が参加し、始めにごみ出しのルールをまとめた動画を視聴しました。その後、町環境係の職員が町指定のごみ袋があることや、ごみは種類ごとに分別して出すルールになっていることなどを分かりやすく解説しました。参加者は、熱心に説明に耳を傾けていました。



プラマーク表示のある製品の分別を説明

花の寄せ植えで町に彩りを

甘楽町生活改善グループ連絡協議会(時澤初江会長)は6月20日、町内施設に設置しているプランターの植え替え作業を行いました。

今回は、赤と黄色のケイトウやマリーゴールドなど4種類の花を寄せ植えし、役場やにこにこ甘楽、楽山園、ふるさと館など町内9カ所へ届けました。

時澤会長は「夏にぴったりの鮮やかな色合いの花を寄せ植えしました。甘楽町を訪れる人の目を楽しませ、元気にしてくれると思います」と話されました。



子どもたちに知識と安心を

小幡小PTA

小幡小PTA(田村守会長)主催の防災教室が7月20日、同校で開かれ、児童や保護者など約100人が参加しました。

夏休み中の災害発生を想定し、子どもたちの安全意識を高めることを目的に実施され、防災に関する「〇×クイズ」やアルファ米を使用した「非常食の試食」、地震の揺れを再現する「起震車体験」、避難所でプライバシーの確保のために使用される「ダンボールルーム作り」を体験しました。

起震車で震度7の揺れを体験した中面雪乃さん(6年)は、「今まで経験したことのない揺れを感じ怖かったです。いつ災害が起こるか分からないけれど、災害への備えが大切だと思いました」と話しました。



アルファ米に水を注ぎ入れ、非常食づくりに挑戦

トップ選手から 実戦技術を学ぶ ～甘楽町・東京都北区 ソフトテニスで交流～

甘楽町ソフトテニス連盟(外所淳也会長)と、北区ソフトテニス連盟(高川庚三会長)は6月22・23日、恒例の「北区・甘楽町都市間スポーツ交流事業」を行いました。

雨のため甘楽町体育館に場所を移し開かれた「ジュニアソフトテニスアカデミー」には、町内外から約50人の選手が参加しました。講師には、共に元全日本選手権大会覇者である高川経生さん(ヨネックス男子監督)と浅川陽介さん(HY-PROJECT)を迎え、実戦に役立つネット際でのプレー技術を中心に学びました。



参加者で集合写真

スペインからのヒッチハイカーをおもてなし

スペイン・バルセロナからのヒッチハイカー6人が、雨が降り出しそうな7月11日の夜、食べ物と野宿する場所を求めて小幡地区の飲食店や役場を訪れました。

彼らは4カ月間におよぶ世界旅行の途中でお金を節約しており、それを知った多くの人の思いやりが続き、居酒屋みやもんで食べ物を、道の駅甘楽では寝る場所を無料で提供してもらい、町で思い出に残る一夜を過ごしました。

彼らは「この町の人親切で、温かい歓迎に感謝しています」と話し、そのおもてなしに感動した様子でした。翌朝、6人はこんにゃくパークに立ち寄り、旅路に甘楽町での思い出を新たに加え、東京に向けて旅立ちました。



一夜明け、道の駅甘楽の敷地内にある松井家住宅の縁側で笑顔を見せる6人

居酒屋みやもん

宮本重男さん(小幡)

「最初は言葉が通じず驚きましたが、困っている状況と彼らが素直な子達ということは伝わってきたので、力になりたいと思いました。お金がないことが分かり、おにぎりなどを渡し、氷水を口にした時は安心した様子で笑顔が見えました。無事に一夜を過ごしたと聞きほっとしました。いい旅になるといいですね」



(一財)甘楽町都市農村交流協会

理事長 三木純一さん

「よく甘楽町に来てくれました。来てくれたからには最大限のおもてなしをしたいと思います。ヒッチハイクをしているという彼らの旅の趣旨を理解し、宿泊施設ではなく松井家住宅を提供しました。築100年以上の伝統的な農家造りで日本文化を感じてもらえたのではないかなと思います」



群馬ジュニア ハンドボールクラブ 県大会で3部門制覇！

第10回群馬県小学生ハンドボール選手権大会が6月8日に妙義総合体育館(富岡市)で開かれ、群馬ジュニアハンドボールクラブ(齋藤英邦監督)が高学年女子の部で優勝し、全国大会(8月1~4日・京都府京田辺市)への出場を決めました。

また、同月23日に渋川総合公園体育館で開催された低学年混合の部Aで群馬ジュニアブルーが、低学年混合の部Bで群馬ジュニアグリーンがそれぞれ優勝しました。チーム力の高さを十分に発揮した同クラブは見事に3部門制覇を果たしました。



全国大会出場の高学年女子メンバー



低学年混合チーム(ブルー・グリーン)メンバー